

トピックス

ロシア大統領プログラムである「企業経営者養成計画」への日本国政府の協力として、将来のロシアにおける経済改革の促進に向けた技術支援の一環で、ロシア国内6都市に日本センターを設置しています。日本センターでは毎年企業経営者を対象とした研修事業として日本でのOJT¹⁾研修を実施しています。今回初めて製薬分野における日本の先進的な制度を教授するための研修が生まれ、医薬品の研究開発・製造・販売にかかわる研修生が来日しました。

2011年度ロシア技術支援OJT研修

医薬品の研究開発・製造・販売に携わる企業の経営者および中間管理職および上記の業務に関連する政府関係者を対象にした、(財)国際看護交流協会が中心となっている本事業に製薬協会会員会社の協力をいただいて製薬協としても参加しました。プログラムは9月20日(火)～9月30日(金)に開講されました。ロシアからの研修生21人が参加しました。

研修内容はさまざまな施設見学と、講演プログラムを中心とし、1)日本の薬事法、2)日本の保険制度、3)薬剤開発(薬草、IT)、4)品質管理 5)配送システム、6)薬剤師、医薬情報担当者などの薬剤関連人材育成、7)治験の動向、8)病院見学(薬事指導を含む)、9)治験センター(病院)、10)その他ビジネス・コンタクトの機会を設けることでした。

施設見学では、大正製薬大宮工場見学で製薬会社

の最新設備を利用した製造工程、品質管理を理解し、生産管理の質を保つための5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)の体制を知ってもらいました。次に、アステラス製薬東日本物流センターの見学で迅速で正確な物流管理・日本の流通システムを知ってもらいました。中外製薬富士御殿場研究所では“がんの治療薬・バイオ医薬品の開発”の講義と研究所見学を通して新薬の研究開発、実用化に向けたがん治療薬開発状況、バイオ医薬品の開発の最前線の状況を知ってもらいました。

講演プログラムとして、エーザイより日本において製薬企業が取り組む医療用医薬品を学び、患者さんの視点に立ったマーケティングプランの立案と、MRによるプロモーションの実践についての理解を深めるために「エーザイの日本市場における医薬品マーケティングの展開とMR活動」と題した講義がありました。次に、武田薬品工業における日本の製薬ビ



講義プログラムの会場風景



ロシアからの研修生の代表
イーゴリ・ミレーナ氏



交歓会の様子

ジネスの展開とその広報活動をアニュアルレポート等を通して理解してもらうために、「日本企業の事業展開と広報活動」と題した講義がありました。

交流会

製薬協伍藤理事長の開催の挨拶のあと、在日ロシア連邦 経済・金融担当参事官イーゴリ・ウスチーノフ氏より露日ビジネスの現状について以下のような講演がありました。「ロシア経済は金融危機でも深刻な打撃を被っておらず、2011年GDPは4.1%でした。中国に比して中間層での著しい増加がみられます。100億ドルの企業ファンド、少数株主の権利保護強化、汚職対策強化、企業の社会福祉税引き下げ、経済発展省の規模拡大などの外資誘致強化策も発表されているように、積極的な外資誘致に動いています」。

また日露経済交流における医療についてはロシアでは輸入より国内製造を優遇しているとの報告がありました。

そのあと3人の研修生の代表からロシア製薬業界の実情について発表がありました。MR活動についての説明では、MRの病院訪問制限など興味ある発表がありました。ロシアの医薬品の価格についてもいろいろな法律や規制があり、今後製薬協として調査していく必要性を認識できました。

その後、交歓会が行われました。研修生はいろいろな職種、アカデミア、政府関係者であり、参加された企業と興味あるテーマについて熱い意見交換会が行われました。新興国市場における医薬品市場2桁台の



研修会参加者

伸びは日本の企業にとっても今後進出、規模拡大していくうえで重要な市場です。今回ロシアの医療に携わる各方面からの研修生と意見交換できたことは、ロシアと深くかかわっていくうえで貴重な経験でした。

終わりに

今回ロシア研修生への講義、施設案内に対して会員会社に大変協力していただきました。参加された研修生は日本の製薬産業の医薬品、商品についての高い品質管理に大きな関心を持って帰国されたと思います。

(国際部部长 紙屋 稔)

1) OJT...On-the-Job Training、企業内で行われる企業内教育・教育訓練手法のひとつ。